

全国学力・学習状況調査

碓井義務教育学校(後期)

1.調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

全国を100とした標準化得点で、【国語:98.0以上】【数学:96.0以上】を目標とする。

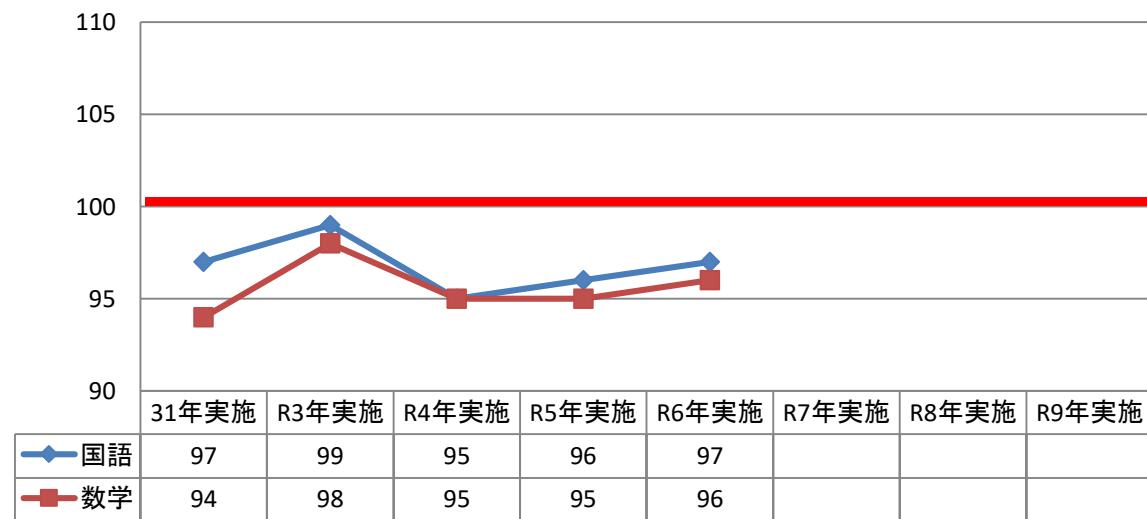
3.指標に向けての取組

- ◇各種テスト結果の分析のための教科部会の設定と、校内学力保障委員会で取組の方向性の提案、現状分析等のPDCAサイクルを意識した取組を継続する。また、義務教育学校として前期課程と早期に課題を共有し、弱点克服に向けた取組、校内研修等を実施する。
- ◇基礎基本の定着と学習意欲の向上を目指した朝学習を実施する。
- ◇「授業チェックリスト」を反映した碓井グランドデザインを活用した授業改善と校内研修を実施する。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	97	96
嘉麻市	96	97
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

- 標準化得点は昨年度と比較して国語数学ともに1p上昇した。
- 各教科部会でのテスト結果の分析、校内学力向上委員会でのPDCAサイクルの実行が形になって表れたものだと分析する。
- それでも全国と比較してC・D層の割合が国語で+17.6%、数学で+16.1%と高いことは本校の課題であり、引き続き取組を進める必要がある。
- 平均正答数で全国と国語が1問差、数学が1.5問差である。あと1~2問正答数を増やす基礎・基本の定着や授業改善等の取組が必要である。

6.各学校における今後の取組

- ◇各種テスト結果の分析のための教科部会の設定と、校内学力向上委員会で取組の方向性の提案、現状分析等のPDCAサイクルを意識した取組を継続する。また、義務教育学校として前期課程と早期に課題を共有し、弱点克服に向けた取組、校内研修を等を実施する。
- ◇基礎基本の定着と学習意欲の向上を目指した朝学習および定期テスト前後の「チャレンジタイム」「フォローアップタイム」を実施する。
- ◇「授業チェックリスト」を反映した碓井グランドデザインを活用した授業改善と校内研修を実施する。
- ◇自学ノートの取り組みを継続し、家庭学習の習慣化を図る。
- ◇C・D層の生徒を把握し、教職員間で学習支援内容を確認する。その後自学ノート等を活用しながら個別の学習支援を継続し底上げを行う。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
 - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
 - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。
また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
 - ◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。